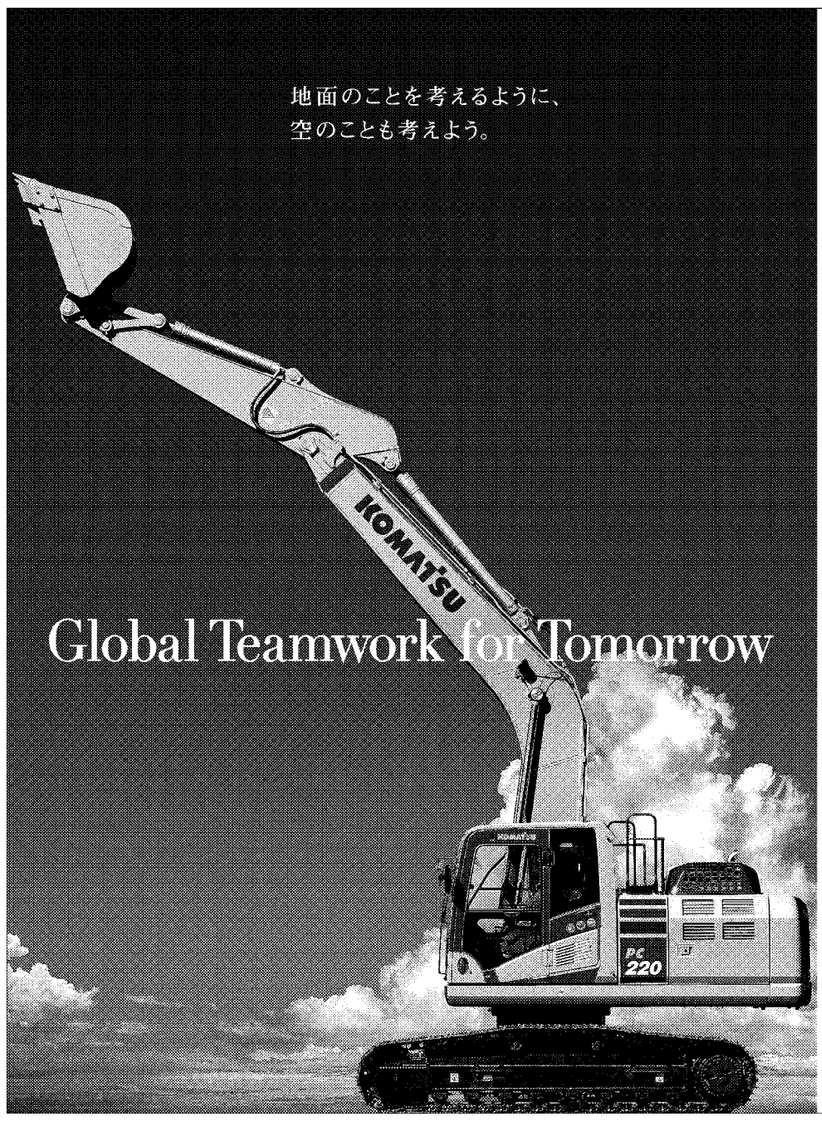


「日・米・欧
新排出ガス規制*」に
適合したコマツの
次世代建設機械、
誕生。

＊米国の"Tier4 Interim"、
欧州の"Stage Ⅲb"につづき、
日本では、オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの
規制等に関する法律）2011年基準が
適用開始されます。

KOMATSU CARE

新サービスプログラム
「KOMATSU CARE」
（コマツ・ケア）
でサポート。

Global Teamwork
KOMATSU
コマツ
〒107-8414　東京都港区赤坂2-3-6
FAX 03-3505-9662　http://www.komatsu.co.jp

UNIC

省エネ・低騒音、高環境性能の「UcanECO」、
現場が求めるエコクレーンです。

Ucan ECOは、
NETISに登録されています。
NETIS登録番号: HK-100026-A

資材の積み降ろしや運搬、機器の据付工事など、多彩な作業を1台で行えるユニッククレーン。とりわけUcan ECOは、ユニック独自の技術に支えられた高い環境性能が評価され、NETISに登録。まさに、現場が求めるエコクレーンです。

NETISホームページ（www.netis.mlit.go.jp）「新技術の検索」から詳細をご覧ください。　エコクレーン　検索

UNIC 古河ユニック株式会社　東京都中央区日本橋1-5-3（日本橋西川ビル）　☎03（3231）8611　www.furukawaunic.co.jp

建設機械

地域社会・未来づくりを支える

建設機械は建築・解体や、架橋、護岸、道路、生活関連などの工事現場で稼働し、地域社会・未来づくりを支えている。建設機械の出荷は東日本大震災の復旧・復興需要を中心に国内向けで好調が続いている。国内向けと輸出向けを合わせた出荷金額は、2012年度が前年度比10％の伸びになるとの予測がある。建設機械業界は安全確認の支援装置を導入するなどして、現場の安全性の向上に取り組んでいる。

今年度出荷 10％増予測

工事現場において、さまざまな建設機械が使われている。建築・解体工事では油圧ショベル、ミニショベル、建設用クレーン、基礎機械、油圧ブレーカ・圧砕機などが稼働している。このほか、トンネル機械、道路機械、コンクリート機械などが投入されている。

日本建設機械工業会（CEMA）がまとめた12年8月の建設機械出荷金額は、前年同月比7・5％減の1648億8500万円となり、2カ月ぶりに落ち込んだ。これを内需（国内）と外需（輸出）に分けてみると、国内は東日本大震災の復旧・復興需要によって同13・7％増の594億1500万円となった。しかし輸出が同16・2％減の1054億7000万円と大幅に減り、全体はダウンした。北米やアフリカ市場が好調だが、全般に需要が低迷しており、9地域のうち中国を筆頭に7地域が前年同月比マイナスで、前月から3地域増えた。中国向けが同72・7％、その他のアジア向けが同35・7％、オセアニア向けが同34・1％、中南米向けが同33・3％減った。その結果、国内は17カ月連続の増加、輸出は3カ月連続の減少となった。

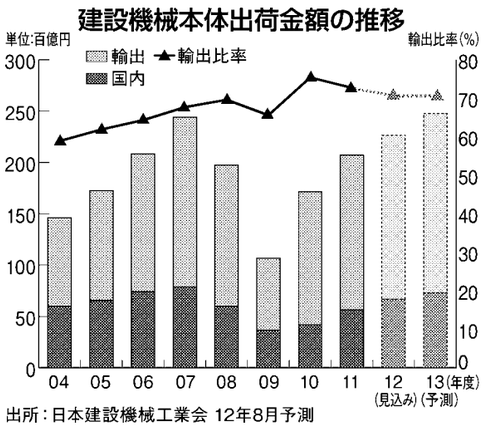
機種別にみると、国内は10機種のうち、ホイールローダーなどのトラクターや、油圧ショベル、ミニショベル、道路機械、コンクリート機械、基礎機械の6機種が前年同月実績を上回った。補給部品も増加した。輸出はミニショベル、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ・圧砕機の4機種が前年同月実績を上回ったものの、他の6機種と補給部品が減少した。

CEMAが12年8月にまとめた12、13両年度の補給部品を除く建設機械本体出荷金額予測によると、12年度は前年度比10％増の2兆2672億円、13年度は12年度比9％増の2兆4767億円になるとみている。

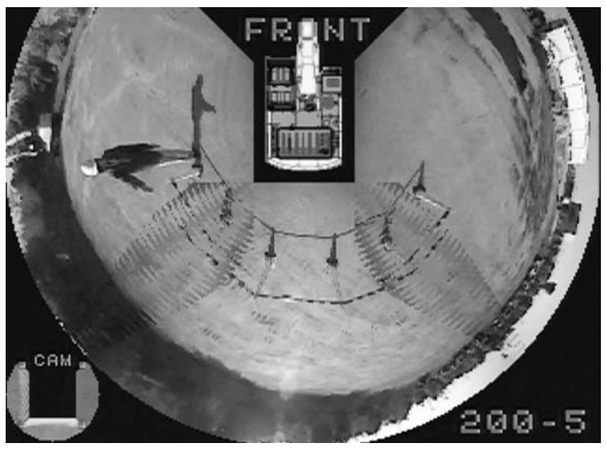
国内は12年度上期が東日本大震災の復旧・復興に起因するリース・レンタル向けなどの需要が見込まれ、油圧ショベルの前年同期比42％増加をはじめ、9機種が増えて全体で同30％増の3075億円を見込んでいる。下期もトンネル機械を除く9機種が増加。この結果、12年度通期は同18％増の6666億円で、3年連続して増加すると予測している。13年度は引き続き震災の復興需要や、消費税増税を控えた駆け込み需要の増加が見込まれ、トンネル機械を除く9機種が増えて、通期で同9％増の7279億円を予測している。

輸出は12年度上期が新興国および資源開発国向けの需要に加え、北米向けなどの需要が好調であることから、建設用クレーンの同29％増をはじめ、9機種が増加し、同8％増の7620億円を見込んでいる。下期も7機種が増えて、12年度通期では同6％増の1兆6006億円となり、3年連続の増加を予測している。この好調が継続し、13年度通期では同9％増の1兆7488億円を見込んでいる。

建設機械本体出荷金額の推移



出所：日本建設機械工業会 12年8月予測



安全確認作業をサポートする運転席モニターのパノラマ映像（住友建機提供）

安全対策に注力

複数カメラ映像で周囲を瞬時に把握

建設機械メーカーは安全対策に注力している。複数のメーカーが建設機械オペレーターの周辺安全確認をサポートする装置を製品化している。油圧ショベルなどに搭載しており、今後、対象建設機械の拡大を図っていく考えだ。この装置は建設機械に複数のカメラを搭載し、各カメラの画像を変換、合成することで建設機械を中心として、上空から見下ろしたような映像を運転席のディスプレーに表示する。これによってオペレーターは他の建設機械との位置関係など、機械の周囲状況を瞬時に把握することが可能になり、より快適な操作環境を得ることができるという。

また、オペレーター保護機能の向上に努めている。油圧ショベルやミニショベルの運転室（キャブ）について、転倒時保護構造（ROPS）や横転時保護構造（TOPS）、落下物保護構造（FOPS）に対応している。

このほか、ラフテレーンクレーンでは、安全装置について、安全機能を解除できなくし、より信頼性の高めている。

Made by Hitachi

今日も地球のどこかで。
日立建機のグローバル・クオリティ。

HITACHI

Reliable solutions

私たち日立建機は、日本はもとより、世界中のエンジニアとつながり、その国にその場所に最も必要な技術環境を創り上げ、持てる最新技術とノウハウを提供しています。
鉱山開発向けの超大型ショベルやダンプ、急成長する都市開発で能力を発揮する高性能油圧ショベル、インフラ整備に欠かせない様々な建設機械など日立建機が必要とされる場所はますます増えています。今日も地球の何処かで、その国の人々とタッグを組み、日立建機のグローバル・クオリティがお役に立っています。

日立建機株式会社
http://www.hitachi-kenki.co.jp/